

---

# 募金

悲劇のM

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

募金

### 【Nコード】

N2956E

### 【作者名】

悲劇のM

### 【あらすじ】

・ 小銭を募金箱にいれたら隣の店員がイチャモンつけてきたんだが・

## （前書き）

気が付いたら書いてました。自分でもわけわからん作品です

コンビニで買い物をして、お釣で小さいのが沢山来たため、俺はそれを募金箱に入れた。

チャリーンという音が募金箱の中に響く。

と、その時店員が言う。

「ちっ、１０円ぽっちかよ、しけてやがんな」

「なんだと、折角募金してやったのに」

「１０円なんて誰が欲しがるんだよ。うまい棒食いたさそうにしてるガキにあげればいいじゃねーかよ」

「このーっ、イライラさせる奴だ」

俺は募金箱に手をつ突っ込んでさっきのお金を取ろうとした。

「おい、てめえ一度入れた金を取り戻そうとするのは反則だろ！」

「うるさい、お前が言うんじゃない！」

「あーあ、お前ガキだな。１０円が惜しいのかよ」

店員はレジをガラッと開けて１万円札を何枚か取り出し、募金箱にねじ込んだ。

店員は勝ち誇った表情を浮かべている。

「ま、負けるかー！！」

俺は財布から紙幣を全て抜き取り募金箱に入れた。

「て、てめえ、俺と張り合う気かよ」

「ふん、俺にやられる前に引き下がるんだな」

「ふざけんじゃねーぞー！！」

店員はレジから金という金を取り出して、募金箱にねじ込んだ。

「上等じゃねーか」

俺は財布に残っている全てを取り出して、募金箱に入れた。

「まけねーよ」

俺と店員は同時に言っていると、銀行まで走った。

俺は銀行で預金を全て下ろした。店員の野郎も同じだった。

コンビニまで戻ると、さっきの金を全て募金箱に入れた。

「もう限界か？」

「お前もそのようだな」

店員は募金箱につけられているボタンを押した。

すると、募金箱が突然喋りだした。

『店員570000円 男570010円』

「俺の勝ちのようだな」

「ちくしょう、負けたか」

「いいファイトだったぜ」

俺はどこからともなく現れた夕日をバックに店員と熱い握手を交わした。

数日後、俺と店員はユニセフの人に晩御飯に招待された。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2956e/>

---

募金

2010年10月21日21時51分発行